

第5学年 国語科授業実践

1 単元名 やなせたかしーアンパンマンの勇氣

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
○語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。	○積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って、考えたことを交流することができる。

3 教材のとらえ

児童は、本単元で初めて伝記を読む。出来事や描かれる人物の言動を正確に捉え、人物の生き方を理解したうえで、伝記を通して見いだした生き方や考え方について友達と共有していく。

伝記は、文学的な描写と説明的な描写で構成される。まず、出来事やそれに対する人物の行動、会話などの事実を捉えさせる。そのうえで、エピソードの選択や人物の言動に対する評価など、筆者の考えに着目し、客観的に人物を捉えたい。加えて、心情などの文学的描写を総合し、人物の生き方や考え方にふれ、人物像を思い描かせたい。人物の生き方や考え方のどこに共感したのか、同じような考えをしたことはないのかと、人物を通して自分を見つめ直し、新たな考えを抱けるようにしたい。そのうえで、人物の生き方や考え方を、本文を引用しながらまとめたい。さらに、自己をみつめながら、自分の考えや行動、信念などを関連させて書き加え、文章にまとめて交流していくようにしたい。

アンパンマンについては親しみがある一方で、作者のやなせたかしをよく知る児童はあまりいないと思う。生い立ちや戦争などの体験が、彼の生き方や考え方に影響を与え、アンパンマンを生み出す原動力となった。正義とは何か、勇氣とは何かを考えるきっかけとなり、また、夢と信念をもち、人のために尽くすたかしの姿に心が揺さぶられる内容を子ども達なりに味わって読み深められるようにしていきたい。



4 本時の指導案

本時の目標 「叙述をもとにたかしのすごさを話し合うことを通して、一人ひとりの感じ方や考え方の違いに気づく。そして、たかしがアンパンマンで伝えなかったことを考え共有することで、たかしに対する見方や考え方を広げ整理し、『自分が考えるやなせたかし』への見通しをもつ。」

本時の学習

学 習 活 動	教 師 の 支 援
○前時の学びを振り返り、本時の学習を確認する。	○アンパンマン絵本の読み聞かせをして楽しい時間を共有し、学習への意欲を高める。
やなせたかしの「一番すごい」と思った言動は？ ・「そうだ うれしいんだ…」…正義について考えぬいた歌詞だから。 ・「本当の正義とはおなががすいている人に食べ物に分けてあげることだ。」…やなせたかしは考え続けて本当の正義を見つけ出してすごい。 ・「戦争は人を殺すことだが、…」…気が付いた言葉だから ・「今も世界中に戦争をしている…」…やなせたかしの中の正義や信念についての言動だから。 ・「どんな仕事も…」…絶対にあきらめないところ。 ・「正義を行い、人を助けようとしたら、…」という信念があった。…信念をもって書き続けたから。 ・「自分の食べ物をあげて…」…人を助けるのは勇気が必要だと思ったから。 ・「悲しみを心にしまって…」…他人のため一生懸命働いている人が本当のヒーローだということ。 ・「傷ついた人たちのために…」…自分を犠牲にしてまで人の役に立ちたいと思っているところ。	
やなせたかしは、「アンパンマン」で何を伝えなかったのだろう。 ・おなががすいた人に食べ物を分けてあげるとい、自分が考え続けて気づいた本当の正義。 ・食べ物を分けることは人を生かすことであり、命を応援することだという自分の答え。 ・「正義を行い、人を助けようとしたら、自分も傷つくことをかくごしなければならない。」という信念。強い心。本当の勇氣。 ・自分を犠牲にしても困った人や傷ついた人のために一生懸命働く、本当のヒーローの姿。 ・平和。子どもへの愛情。 ○本時の学習を振り返る。 ・話し合いを通して考えたことを、ノートに書く。	
○まず自分の考えをペアで確認し、発言することに自信がもてるようにする。 ○キーワードを板書し、やなせたかしのすごいところについて整理していく。 ○発言の苦手な児童には、声掛けをしていくが、無理強いはいしない。 ○ところどころ子どもの共感ポイントに声掛けし、自分の考えるやなせたかしについての見通しをもたせていく。 ○やなせたかしに対して「すごい」という見方から「何かを伝えなかった？」という見方に変化するようにしていきたい。 【思考・判断・表現】 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気づく。 自分で考えたことや友達の発言などに基づいて、自分の考えをノートにまとめることができる。	

